

会 議 録

1 会議名

令和6年度第3回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・こどもプールの廃止について（公開）
- ・農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」の策定について（概要）（公開）

【自主的な審議】

- ・自主的審議の進め方について（公開）

3 開催日時

令和6年11月11日（月）午後6時30分から午後7時50分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員： 熊木敏夫（会長）、市川 禅（副会長）、荒井琴美、五十嵐里枝、
内山道夫、栗間良子、木浦優紀、高橋邦夫、高橋秀樹、
高山孝次、竹内秀彦、名取康一、峯村真紀子、三宅佐和子、
柳澤 亘（欠席者1名）
- ・都 市 整 備 課： 大堀副課長、三原田係長
- ・事 務 局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、
丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の

出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：栗間委員、木浦委員に依頼

議題【報告事項】こどもプールの廃止について、都市整備課へ説明を求める。

【都市整備課：大堀副課長】

- ・資料No.1「こどもプールの廃止について」に基づき説明

【熊木会長】

今ほどの説明に対し、質疑はあるか。

【高橋邦夫委員】

ここは有田区の地域協議会なので、市内全体がこうだから廃止するという説明ではなくて、この有田区の桐ノ木公園と春日新田公園のプールの利用状況などを町内会に説明した結果、佐内町町内会や春日新田5丁目町内会はどのようなお考えだったのかということ報告してもらわないと分からないのではないかと。例えば、ここにある12か所のこどもプールの利用状況は一律ではないと思う。どの施設も9割程度利用者が減少したので、町内会と協議をして、結果として全ての施設が廃止という形になったということなら分かるが、個別のプールの状況が分からない形で報告をいただくと、なんとなく違うのではないかと思うが、その辺についていかがか。

【都市整備課：大堀副課長】

こどもプールの利用者は12か所すべてが同一ではないが、以前よりも減少しているのが実態である。個別の利用者数について報告させていただく。

【都市整備課：三原田係長】

利用者数は、令和6年度は、春日新田公園が、子供が441人、大人が145人、合計586人。桐ノ木公園が、子供が194人、大人が64人、全体が258人である。

比較として、平成25年度の利用者数は、春日新田公園が、子供が1,177人、大人が262人、合計1,439人。桐ノ木公園が、子供が603人、大人が133人、合計736人である。

【高橋邦夫委員】

数値はわかったが、これを町内会としてどのように考えたのか。必要性が低下していることから、町内会から了解を得ているという報告があれば「わかりました。」と言える

が、その辺がどうなのかということも併せて報告していただきたい。

【都市整備課：大堀副課長】

関係町内会長には4月から廃止に向けてご意見を頂戴しており、利用者の減少、修繕費、維持管理費の増加等の状況を説明した中で、やむを得ないのではないかとというような話をいただいている。

それを受けて、市では、全こどもプールを廃止とする方針決定をして、今後、跡地の利用についてのご意見をお聞きするというので、改めて関係町内会長にお伺いして、跡地の利用についても一緒に検討していくというお話をいただいている。

【栗間委員】

春日新田公園のこどもプールは、私の家の目の前にあり、娘が利用して、今は孫が利用している。孫が夏休み等に来ると、家の前だったので利用するにはとても便利で、なくなるのはとても残念だ。

廃止ということだが、もう少しまなく意見を取ってほしいという感じがした。

【熊木会長】

今まで利用していた人が、なくなることに對して不便さを感じることは確かだと思う。

現状は、私もたまに通ってみると、利用者が誰もいない中で、管理人だけが何人もいるというのを見かけ、経費的にいかななものかと思っていた。廃止になるのは、やむを得ないのではないかと感じがする。今後、慎重に各町内会と話を進めてもらいたいと思う。

【高橋秀樹委員】

該当する町内会長をしているが、いただいた説明では、大分老朽化してきているので、水漏れ等、修繕にお金のかかる状況になっているとのことであった。

それから、こどもプールには保護者が必ずついて行くというルールがあつて、それならばリージョンプラザへ行くという方もおり、非常に利用者は減っているというのは確かである。

廃止の話自体は去年の春先から説明があり、「今年もまたプールやるんだね。」と私どもが問い合わせたくらいで、ここ10年ぐらいの間に、水漏れで2回ぐらい直してもらったり、タイルが剥がれたりということがあり、とてもではないが維持管理が大変だということ。

それと、子どもたちが減ってきているということがあり、先ほど会長の話にあつたよ

うに、あそこへ行っている人がいないというのが実態である。

その話を受けて、来年からこどもプールはなくなるということを町内に周知したところだが、それで何か反応があるかという、特にない。

うちの町内はそのような状況である。

【熊木会長】

ほかに質問等を求めるがなし。

— 都市整備課 退室 —

次に【報告事項】農業経営基盤強化の促進に関する計画「地域計画」の策定について（概要）について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

・資料No.2「農業経営基盤強化の促進に関する計画『地域計画』の策定について（概要）」に基づき説明

【熊木会長】

ただいまの説明に対し、質問等はあるか。

【竹内委員】

私は専業農家なので、この計画策定に関する11月の会議について案内が来ている。農地はほ場整備事業でほとんどが整備されてきている。有田区に最後残っているのは三ツ橋と安江の間の部分で、それももう少しで完成するような状況なので、有田区の農地のほとんどが整備されている中で、果たしてどのように10年後のことを考えていくのか。私も引退間近の身なので、先行きがわからない。

私としては、農業者の立場として気になる部分があって、農道を犬を連れて散歩されている皆さんが結構いたりして、そこに農地があることによって、癒されている部分もあるのではないかと思いますながら農業をやっている。

この会議に私も出る予定でいるが、有田区の農地の今後について農家ではない皆さんがどのように思われているか、是非皆さんからお聞きしたいと思っている。

【熊木会長】

これは報告事項であり、地域協議会で協議することとは別である。

【石崎係長】

今回報告させていただいた趣旨を改めて説明させていただくと、こういった計画策定のために、地域の中で話し合いを行っていくということを事前にお知らせして、地域の中で起こることを予めご承知おきいただくというのが趣旨になっている。地域協議会としてこの計画策定に関わっていく予定はない。

【竹内委員】

承知した。

これに対しての協議というよりも、私はこの会議に出る予定なので、皆さんから何か有田区の農地に対して一般の市民としての意見などがあれば聞きたいという趣旨であった。

【熊木会長】

ほかにあるか。

【高橋邦夫委員】

今ほど地域計画の策定について、進め方の説明があったが、この進め方は有田区にはふさわしくないのではないか。

地域計画が、「人と農地の問題を地域で解決していくための将来予想図」となっているにもかかわらず、農業関係者しか入っていない。資料の一番最後に「農地の所有権や利用権は移動しません。」と書いてあるが、農業従事者でなくても、農地の所有権を持っている方がたくさんいる。

大規模になればなるほどそういう状況があり、現在私は町内会長をやっているが、農業関係の会議はほとんど全部町内会長も出ている。それは、農業をやっていないけれども、土地としては共有しているという方がたくさんいるからである。

そういうことがあるにもかかわらず、参加者が農業関係者だけに絞られていると、本当に当初の目的の地域計画の策定になるのだろうかと危惧している。これは言っても仕方がないことと思うが、そのような意見があったということだけは伝えていただきたい。

【石崎係長】

承知した。担当課に伝える。

【荒井委員】

私も会議の参加者に農業関係者が多いという印象だった。

今、農業と福祉の連携で担い手不足の課題を解消していこうという「農福連携」の取組も多くあるので、そういった意見も取り入れられる会議にさせていただけると、より一

層会議に活気が出ていいのではないかと思ったので、これも意見としてお伝えいただければと思う。

【熊木会長】

意見として上げていただきたいと思う。

ほかに意見を求めるがなし。

次に、**【自主的な審議】**自主的審議の進め方について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

・資料No.3「自主的審議の進め方について」に基づき説明

前回欠席の委員もいらっしゃるので、そちらの委員のご意見等も伺っていただきたいと思う。

【熊木会長】

前は荒井委員と木浦委員が欠席されたが、名簿順ということで荒井委員から、意見や思いがあればお話をしたい。

【荒井委員】

皆さんの前回のご意見等を伺って、私も「カルチャーセンターのさらなる活用」というところで、カルチャーセンターは、有田区のいろいろな拠点になれる施設だと思うので、子どもや高齢者も大勢利用されているし、誰でも使いやすいような施設という視点で設備を整えていただけると、とてもいいのではないかと思った。

例えば、設備の問題なので少し違う話になるが、トイレ一つにしても、まだ和式のトイレが残っていたり、トイレに行くのに、靴を履き替えなければいけない。入口のちょっとした段差等も、バリアフリーというには少しきつい施設だと感じている。「誰でも使いやすい」という視点で整備していきつつ、どんな人が来てもいろいろな活動が楽しめるような、そんな施設になってもらえるといいのではないかと思った。

【木浦委員】

私は「消防団のなり手」というところで、下門前に新しく団地ができたところだが、若い方を消防団に誘っても入っていただけない。理由が何なのか聞いてみると、活動が朝早かったり、平日に連続して訓練があることなどがネックとのことであった。

地域全体として入団に強制力があっていいのかは分からないが、入っていただけるような仕組みづくりをしていったらいいのではないかと考えている。

というのは、夜警や防災の呼びかけなど、なかなか町内の担当者だけでは難しいとこ

ろがあって、今は残業もなかなかできないので、若い方が自宅に帰る時間も早いのではないかと、地域にもう少し目を向けられるのではないかと感じている。

【熊木会長】

お二人から意見をいただいた。

事務局に資料の続きの説明を求める。

【石崎係長】

- ・資料No.3「2 自主的審議の今後の進め方（案）」に基づき説明

資料では、皆さんに審議したいテーマを後日選んでいただくという形で記載したところだが、進め方をさらに検討した結果、まだ各ご意見の現状への理解が深まっていなかったり、課題が深掘りされていない状態で、テーマを選ぶのは時期尚早と考え、本日は前回及び今回の協議会で出されたご意見について、一つひとつ深掘りをしていただきたい。

【熊木会長】

では、深掘りをしていこうと思うが、どのようなことが問題なのか、その問題の解決によって有田区がどう活性化されていくのかという視点で、一つひとつ意見を整理していきたいと思う。

まず、資料の最初にある「カルチャーセンターのさらなる活用」から話を進めていきたい。

今、荒井委員からも意見が出たが、併せて意見等はあるか。

【竹内委員】

カルチャーセンターと皆さんが言われているのは、この建物だけのことなのか、周囲の野球場等のいろいろなスポーツ施設まで含めてのことなのか。

私はあまりここに来たことがなく、この会議はほとんど夜なので、周りをよく見たことがなかった。先日この周りを回ったら、ものすごく広い。前の方には空き地もあつたり、非常に土地にゆとりのあるところだと思って見ていた。

果たして、皆さんどのくらい利用されているのか、実態が分からない。

【熊木会長】

利用実態の詳細については、今は回答が難しいであろうが、私たちがどこまでをカルチャーセンターと言っているのかについては、ここでは野球場等のグラウンドやテニスコートまで含めてカルチャーセンターと言っている。

【高橋秀樹委員】

会長のおっしゃるとおりだが、厳密にはカルチャーセンターは公民館が管理をしているこの会議室や体育館などの建物を指す。外側の野球場やテニスコート、サッカー場は、スポーツ推進課が管理をしている。

利用実態の話をする、建物の中は、私ども有田福祉の会で一週間の六、七割はお借りしているが、結構満室状態である。ところが、サッカー場や野球場はガラガラだが、年間予約が入っていて借りるに借りられない。空いているときは子どもに使わせてあげられるような仕掛けをしていかないと考えている。

カルチャーセンターの課題として考えていることは、ゲートボールハウスがあるが、あれは高齢者支援課の管轄で、野球場はスポーツ推進課、駐車場はまた別の課など、複数の課が絡んでいるため、要望をするにもどこに話をすればとなる。そこをまとめて話をできる形にしてもらいたい。上越市の中で、これだけグラウンドもあって、散歩するところもあるというところはない。改善することでもっと利用されるのではないか。

もう一つは、手すりのところに目が悪い方たちのための点字が付いていない。後からできた直江津学びの交流館や、オーレンプラザにはみんな手すりに付いている。それから、トイレが壊れても1年間も直していない。状況を聞くと、「それはどここの管轄だ。」と言われるので、ここはカルチャーセンターを全体で見て、この施設をどうしていかなければならないかということをやっていないと。ちなみに、ここの利用率は、高橋邦夫委員に頑張ってもらい夏休み勉強会なんかもやったりして、延べ人数100人くらいが夏休みに来て、それくらい子どもたちの利用がものすごかった。高齢者も利用者数が上がっている。

ここは有田区の中でも、サッカーをやっても、グラウンドゴルフをやっても、利用率が高いので、建屋みたいなお金がかかるものはおもかく、どういうところをやってほしいかリストアップして伝えていかないといけない。

また、深掘りの話をする、改善することによって大勢集まったら、どういういいことがあるかということも考えなければいけない。例えば、イベントをやったらこうだ、そうするとどういう効果があるかということ、考えながらやらないとえらい騒ぎになる。

次に書いてあるごみ集積所の話だが、先々週ぐらいにオートバイと車の接触事故があった。あそこは土日の交通量がすごい。今、有田地区の交通安全協会にお願いして、止

まれの看板や線を引いてストップしてもらおうようなことをやってもらっている。何を言いたいかというと、市は後手後手である。利用している側が、有田地区町内会長協議会をはじめ、そういうところに協力いただいてやっていかないと、なかなかやってもらえないということがあるので、ここを全面的にどうしていくかという将来構想を考えてやっていったほうが良いのではないかと考える。

先ほどの消防団の話については、どこの町内の人もなかなか入団してもらえない状況かと思うが、はっきり言うとすでに答えが出ていて、すでに消防団の統合の話が進められている。例えば、私どもが関係する福田と佐内と春日新田は一つの消防団にするという話がある。ただ、火災だけでなく、水害のときや町内の問題があったときにも、消防団の方たちからお手伝いをいただいている。消防団の統合と一緒に、そういった自衛団みたいな機能もどうやっていくかということも考えていかないと、なかなか地域を守っていけないのではないかという感じがする

【熊木会長】

カルチャーセンターについて、ほかにあるか。

【高山委員】

先ほど、高橋秀樹委員がおっしゃった手すりの関係で、条件はあるが、確か個人のお宅に手すりを付ける際の市の補助があったと思う。片方でそうやっておきながら、こういう公の施設が依然として進んでいないというのはどうなのかという思いがある。

それと、隣のサッカー場は、とても立派で私も孫と時々来るが、年に数回芝の管理のキーパーを回して、とてもきれいに仕上げている。少年サッカーチーム等が年間予約をしていて、その人たちが優先なのは当然かもしれないが、市民目線で見ると、あれだけ管理するために大きなコストをかけておきながら、近所の子どもたちがキャッチボールや、ボールを蹴られるくらい利用はできないのかと話をお聞きして思った。

私はここから少し遠いところに住んでいるので、今回初めてそういう実態だと理解した。

所管部署は多岐にわたるそうだが、使用実態や条件等が分かるようなものがほしいと思った。

【高橋邦夫委員】

今ほどの話から、このカルチャーセンターが、市のいろいろな課が所管していて、住民としては非常に使い勝手の悪い施設になっているということが皆さんおわかりになる

と思う。住民自身が使い勝手が良くなるためには、カルチャーセンターそのものの利用についての審議会や実行委員会というようなものを作りながら、関係する課を一堂に会して、住民として、利用するにあたってこのような課題があるということ全体をトータルで話をする。それぞれ個別にやると、市の事情でできないという話になってしまうので、カルチャーセンターをどう利用するか、活用するかという視点で考える組織が必要ではないか。地域協議会はもっと他のことやらなければいけないので、その役割を持つ必要はないと思う。それが一つ自主的審議の内容になるのではないかと感想を持った。

【柳澤委員】

私は特にこの野球場を利用させてもらっている。野球場とサッカー場を使用している場合、トイレがない。以前、野球をやっている子どもたちが、カルチャーセンターへ来てトイレを使ったときに、泥が付いているといったことがあり、サッカー場のほうにトイレを増設してほしいという、場所がないということだった。

皆さんご存じかわからないが、この奥に雅子妃の記念碑があり、そこは上越市ではなく宮内庁の管轄だという話を聞いている。もっと目立つところに置いたほうがいいのではないかと思う。そうすると、あの奥も駐車場等に利用できるのではないかと思う。検討していただきたい。

【熊木会長】

課題として挙げておく。

【高橋秀樹委員】

夕方5時頃になると、この辺の方が犬の散歩で人がすごい。犬が散歩するところだけコースを作ってもらわなければ困る。例えば、子どもが遊ぶところでおしっこをする等のことがあると、子どもが遊べないではないかという話をしているが、先ほどの話で、どこが取りまとめる、なんだかんだとなって前に進まない。だから、そういう体制を整えるような仕掛けをしていかないと進まない。

どうやったら使い勝手がいいか、メンバーを募って、みんなで真剣に考える仕掛けをしていかなければ駄目ではないかと思う。

【竹内委員】

そういう委員会のようなものを作ると、地域協議会の諮問機関のような形のシステムになるのか。独自にやるべきなのか。

【高橋邦夫委員】

別にしたほうがいいと思う。

【竹内委員】

せっかく地域協議会があるので、そちらのほうが通りがいいようが気がする。我々は、地域協議会でいろいろな問題点を話し合っているが、そこで止まってしまうのかという話である。

【佐藤所長】

今ほどの話を具体化していくとすると、例えば、この場で自主的審議事項にするかしないかを決めていただき、自主的審議事項として、カルチャーセンターのさらなる活用を皆さんで揉んでいただいて、課題に対してどうしたいかを決めた中で、意見書として市に出すという形が一番スマートではないか。地域協議会とすると、そのようなシステムがあるので、それをぜひ活用していただきたいと思う。

【高橋邦夫委員】

審議会のようなものを市が作って、この地域協議会の委員も入ったり、カルチャーセンターの利用団体も入ったり、関係課の代表者や担当者が入って、課題や利用方法等についてきちんと話し合っ、一つ一つ解決できるものを解決していくというような組織とするというのはどうか。

【佐藤所長】

先ほど申し上げたとおり、皆さんにお願いしたいのが、まず自主的審議事項として皆さんの中で議論をしていただいて、関係課から話を聞きたいということであればそこは一堂に会しながら、この場で皆さんと質疑応答をしていただきながら、前に進めていただきたいと思っている。審議会というと、その先の話になるかなと思う。

我々とする、自主的審議事項として検討し、結果をまとめていただきたいと思っている。

【高橋秀樹委員】

ここにあるテーマの中だと、カルチャーセンターが一番効果が目に見えやすいと思う。まずはこのテーマで進めてみて、その次に他のテーマに入っていないと頭が混乱するだけの気がする。

【熊木会長】

一番課題として多いのがカルチャーセンターの問題で、あとの問題は意味解決しようと思えばできるような案件の気がする。

「地域資源の棚卸し及び活用方法の整理」についてはどうか。

地域資源の棚卸しとは、何が有田区の地域資源かということもあると思うので、この意見を出された方から少し説明をいただきたい。

【高山委員】

先ほどのこどもプールのような公の施設であったり、歴史的なものであったり、そういうものが区内にどれほどあるかということを知らないので、自分なりに理解したいという思いからこのように発言した。私の中で、どんな地域資源があるか分かった上での発言ではなかった。

【熊木会長】

有田区に歴史的なものがあるのかと言われたら、非常に少ない。歴史はあることはあるが、いわゆるハードの部分は非常に少ないエリアである。

以前、「有田の歩み」という冊子が作られたかと思う。神社、石碑といったものをすべて網羅しているかどうかはわからないが、そこから見ていけばいいのではないかと。

【高橋秀樹委員】

資源というと、例えば、子どもたちも資源だったりする。だから、子どもたちが何か始めたい、子どもと一緒に何かをする。そういうものも資源だという気持ちにならないと、お寺など歴史だけになるので、そういうパワーをどう掘り出すかというのが、資源発掘の一番の方法ではないかと思う。

【高橋邦夫委員】

ハードの部分というよりも、どちらかというソフトの部分ではないかという感じがしている。地域資源というと、有田福祉の会はこのカルチャーセンターを非常にうまく利用しながら活動しており、有田区に重要な地域資源だと私は思っているし、私が主催している直東学園も、人材育成のためということでは、教育分野での地域資源だろうと思っている。

地域で頑張っている団体の活動が、地域にどのように寄与しているかというのは、意外とわかっていない。小さい協議会のようなものもあるし、大きく全体に知られているような団体もあるが、なかなかそういう人たちは、外に広がらず自分たちの中でやってしまうので、なかなか地域資源までいかない。それをうまく結びつけていけば、地域資源にはなるだろうと思う。そんなことも含めて、考えたほうがいいのではないかという感想である。

【熊木会長】

深掘りの部分は三つ目まで完了した。

有田区に何があるのかと言われたときに、よく話をするのが、教育の部分。学校に投資するという部分で力を入れている。

学校の後援会費というか、学校に使える金額は、有田区はおそらく全市でトップである。小中合わせると一世帯2,000円ぐらいになる。これは皆さんの町内会費から出ている。ご存じない方もいるかもしれないが、そのくらい町内会費からいただいて、小中学校に後援会費としてお渡しして、小中学校で使っている。そういったことで、子どもに投資しておこうというのは、有田区では昔から伝統的にある雰囲気である。こういった部分を、地域の住民の方に知らせていかなければいけないだろうと思う。

残った部分の深掘りに関しては、次回進めていきたいと思うので、今日はここで閉じたいと思う

事務局は次回の地域協議会までに今日の話をもとめていただければありがたい。

その他について、事務局何かあるか。

【石崎係長】

- ・地域協議会ファシリテーション研修及び正副会長意見交換会について報告
- ・次回協議会：会長と日程調整の上決定

【熊木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。